

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立三日月中学校
1 前年度 評価結果の概要	前年度は、独自の自学ノートである「かけはしノート」を活用し、授業と家庭学習とのつながりを目指して学力向上に取り組んだ。その結果、「先生はわかりやすい授業になるようにいろいろ工夫している」と答えた生徒が93.0%（昨年比0.3%減）であった。また、「この学校でたくさんのことを学び、成長している」と答えた生徒は86.0%（昨年比0.1%減）、「自他を尊重する気持ちが育ってきた」と答えた保護者は78.7%（昨年比3.1%向上）であった。これは、学校の教育活動全体を通して生徒1人ひとりに丁寧に対応してきたことに加え、家庭と連携して取り組んできた成果と考える。今後も継続して取り組んでいく。
2 学校教育目標	夢に向かい主体的に学び、行動できる生徒の育成 ～夢・自信・チャレンジ三～
3 本年度の重点目標	学ぶ環境を整え、ともに学び合い、高め合う生徒の育成の手立てを探る。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			主な担当者
(1)共通評価項目				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	学校関係者評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組				実施結果	評価	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・マイプランの実践を通して学力向上に取り組む。さらに研究主任を中心に実践の振り返りや修正等を行い、より良い実践へとつなげる。						
	○主体的・対話的で深い学びを促す活動を中心とした授業づくりの実践	○先生は、分かりやすい授業になるようにいろいろ工夫していると回答する生徒が80%を上回る。	・授業で「めあて」「まとめ」「ふり返り」の時間を確保する。その上で生徒が主体的・対話的に学習に取り組む授業展開を図る。						
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業が楽しい、自己の成長に役立つと思う生徒の割合を90%以上とする。	・学年職員全員で道徳の授業を行い、道徳教育の充実を図る。 ・生徒の「出番」「役割」「承認」を大切にされた学校行事や生徒会活動の充実や集会の内容の充実を図る。						
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校が楽しいと回答する生徒が90%を上回る。	・毎月いじめアンケートの実施をする。 ・ネットいじめ防止及び情報モラル教育に関する研修会(講演会)を1回以上行う。						
	◎全職員による「心の講話」の実践 ○無言清掃の取り組みにより、心の成長につなげる。	◎「心の講話」が自己の成長や夢につながったと思う生徒の割合が80%を上回る。 ○無言清掃が心の成長につながっていると回答する生徒が85%を上回る。	・輪番にて、教職員が生徒の自己の成長や夢につながるような講話を実施する。 ・無言清掃の意義や考え方を生徒集会や職員研修で伝え、周知徹底を図る。						
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・生徒会と連携し健康な体作り、食事の大切さを考え、実践と結びつける活動の実施。						
	②「望ましい生活習慣の形成」	②生徒指導部で毎月出される成長目標の達成が80%以上	・生活部とタイアップして生活習慣のアンケートや自己の評価をし、PDCAサイクルができるようにする。						
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上	・食育の大切さについて考える授業や学活に取り組む。						
	④「安全に関する資質・能力の育成」	④生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・交通安全教室を全校生徒を対象に開催し、事故の予防に取り組む。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・部活動休業日の徹底 ・学校行事の内容再検討および行事精選						
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組				実施結果	評価	
○校内研における学力向上の取り組み	○ともに学び合い、高め合う生徒の育成～学習効果高めるタブレット端末の活用を通して～	○タブレット端末を活用することで、学習内容がわかりやすくなったと答える生徒が、70%を上回る。	・タブレット端末を活用して、学習内容の充実を図るために、電子教科書やタブレット機能を使った学習の在り方を探る。						
	○「かけはしノート」と「家庭学習のステップ」の活用	○家庭学習の時間を1時間以上とることができている生徒が、70%を上回る。	・「かけはしシート」と「家庭学習のステップ」を活用して、授業と家庭学習のつながりを深める工夫に取り組む。						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--